

平成30年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	鹿児島県		職員の状況				区分		平成30年度(千円)	平成29年度(千円)	区分		平成30年度(千円・%)	平成29年度(千円・%)					
			区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)		歳入総額	歳出総額	実質収支比率	経常収支比率	標準財政規模	財政力指数	公債費負担比率	健全化判断比率	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	資金不足比率(※4)
グループ	D		知事	1	12,400		782,107,653	805,010,053	1.0	0.7									
人口	27年国調(人)	1,648,177	副知事	2	9,700		759,062,976	786,055,448	98.2	97.6									
	22年国調(人)	1,706,242	教育長	1	7,700		23,044,677	18,954,605	(105.8)	(105.6)									
	増減率(%)	-3.4	議会議長	1	9,700		18,354,341	15,484,922	475,587,075	475,495,084									
住民基本台帳人口(※6)	31.01.01(人)	1,643,437	議会副議長	1	8,700		4,690,336	3,469,683	0.34665	0.34288									
	うち日本人(人)	1,633,098	議会議員	49	7,800		1,220,653	-1,873,104	23.2	22.9									
	30.01.01(人)	1,655,888	特別職等				1,714,817	4,350,365											
	うち日本人(人)	1,646,915	一般職員等(※5)				1,712,095	4,338,747											
	増減率(%)	-0.8	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	1,223,375	-1,861,486											
うち日本人(%)	-0.8	一般職員	6,788	22,013,484	3,243	143,858,234	140,011,233												
面積(km ²)	9,187		うち消防職員	-	-	405,379,935	404,947,619												
人口密度(人/km ²)	179		うち技能労務職員	244	795,928	179,849,189	174,847,158												
世帯数(世帯)	724,690		警察官	3,054	9,436,860	465,371,833	463,235,964												
			教育公務員	13,826	52,648,770	541,620,581	544,999,738												
			臨時職員	-	-	1,603,161,253	1,622,293,585												
			合計	23,668	84,099,114	495,066,559	544,419,418												
			ラスパイレス指数		96.2	495,066,559	544,419,418												
						債務負担行為(支出予定額)	38,760,226	53,223,253											
						収益事業収入	3,825,139	3,830,688											
						定額運用基金	6,000,000	6,000,000											
						土地開発基金	6,000,000	6,000,000											
						積立金	17,558,888	17,556,166											
						現在高	7,438,016	7,437,131											
						その他特定目的基金	47,663,446	51,516,388											
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧														
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名								(※3)
(1)	一般会計	(9)	国民健康保健事業特別会計	(10)	鹿児島県工業用水道事業特別会計	(12)	鹿児島県港湾整備事業特別会計			(13)	鹿児島県文化振興財団								
(2)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計			(11)	鹿児島県病院事業特別会計					(14)	肥後おれんじ鉄道株式会社								
(3)	中小企業支援資金貸付事業特別会計									(15)	鹿児島県森林整備公社								○
(4)	就農支援資金貸付事業特別会計									(16)	万之瀬川水源基金								
(5)	公共土木用地取得先行事業等特別会計									(17)	鹿児島県林業担い手育成基金								
(6)	林業・木材産業改善資金貸付事業特別会計									(18)	鹿児島県環境整備公社								
(7)	沿岸漁業改善資金貸付事業特別会計									(19)	鹿児島県環境技術協会								
(8)	公債管理特別会計									(20)	屋久島環境文化財団								
										(21)	かごしまどりの基金								
										(22)	鹿児島県民総合保健センター								

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※6: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・％）					道府県税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	182,125,977	23.3	145,308,225	33.0	普通税	181,907,721	99.9	1,113,747	
地方譲与税	29,885,952	3.8	29,885,952	6.8	法定普通税	179,886,479	98.8	1,113,747	
地方揮発油譲与税	3,531,547	0.5	3,531,547	0.8	道府県民税	50,196,940	27.6	1,113,747	
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	1,471,833	0.8	369,542	
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	41,776,776	22.9	-	
石油ガス譲与税	142,037	0.0	142,037	0.0	法人均等割	1,782,785	1.0	84,647	
航空機燃料譲与税	54,611	0.0	54,611	0.0	法人税割	3,709,986	2.0	659,558	
地方法人特別譲与税	26,157,757	3.3	26,157,757	5.9	利子割	467,109	0.3	-	
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	配当割	523,090	0.3	-	
地方特例交付金	715,133	0.1	715,133	0.2	株式等譲渡所得割	465,361	0.3	-	
地方交付税	267,648,589	34.2	261,555,670	59.5	事業税	29,838,759	16.4	-	
普通交付税	261,555,670	33.4	261,555,670	59.5	個人分	1,347,834	0.7	-	
特別交付税	6,079,100	0.8	-	-	法人分	28,490,925	15.6	-	
震災復興特別交付税	13,819	0.0	-	-	地方消費税	61,665,612	33.9	-	
(一般財源計)	480,375,651	61.4	437,464,980	99.5	不動産取得税	3,663,083	2.0	-	
交通安全対策特別交付金	528,802	0.1	528,802	0.1	道府県たばこ税	1,750,500	1.0	-	
分担金・負担金	5,755,634	0.7	-	-	ゴルフ場利用税	396,598	0.2	-	
使用料	8,049,235	1.0	825,956	0.2	自動車取得税	1,885,013	1.0	-	
手数料	4,036,880	0.5	-	-	軽油引取税	12,542,000	6.9	-	
国庫支出金	134,628,510	17.2	-	-	自動車税	17,939,602	9.9	-	
国有提供交付金	-	-	-	-	鉱区税	8,372	0.0	-	
財産収入	3,763,556	0.5	29,515	0.0	固定資産税特例	-	-	-	
寄附金	119,758	0.0	-	-	法定外普通税	2,021,242	1.1	-	
繰入金	13,678,441	1.7	-	-	目的税	218,256	0.1	-	
繰越金	18,954,605	2.4	-	-	法定目的税	26,058	0.0	-	
諸収入	13,953,765	1.8	862,638	0.2	狩猟税	26,058	0.0	-	
地方債	98,262,816	12.6	-	-	法定外目的税	192,198	0.1	-	
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	
うち臨時財政対策債	34,182,216	4.4	-	-	合計	182,125,977	100.0	1,113,747	
歳入合計	782,107,653	100.0	439,711,891	100.0					

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	1,325,487	0.2	-	1,325,304	
総務費	46,684,792	6.2	8,364,569	36,581,072	
民生費	132,091,101	17.4	550,036	118,337,819	
衛生費	27,037,808	3.6	3,109,897	11,861,782	
労働費	1,693,682	0.2	36,303	767,316	
農林水産業費	71,316,352	9.4	47,252,434	20,315,075	
商工費	11,118,263	1.5	4,215,713	6,775,001	
土木費	81,027,332	10.7	70,307,519	11,874,049	
警察費	35,692,739	4.7	2,447,180	32,082,927	
消防費	-	-	-	-	
教育費	182,764,136	24.1	6,268,880	134,240,175	
災害復旧費	4,312,883	0.6	-	424,861	
公債費	130,501,782	17.2	-	125,942,071	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
利子割交付金	300,994	0.0	-	300,994	
配当割交付金	333,419	0.0	-	333,419	
株式等譲渡所得割交付金	390,371	0.1	-	390,371	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	
地方消費税交付金	30,902,493	4.1	-	30,902,493	
ゴルフ場利用税交付金	270,454	0.0	-	270,454	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	
自動車取得税交付金	1,298,888	0.2	-	1,298,888	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	
特別区財政調整交付金	-	-	-	-	
歳出合計	759,062,976	100.0	142,552,531	534,024,071	

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	380,481,282	50.1	325,940,995	324,993,761	68.6
人件費	223,719,413	29.5	188,165,208	187,571,930	39.6
うち職員給	167,594,551	22.1	133,597,479	133,597,479	28.2
扶助費	26,549,565	3.5	12,123,194	12,117,100	2.6
公債費	130,212,304	17.2	125,652,593	125,304,731	26.4
元利償還金	130,212,304	17.2	125,652,593	125,304,731	26.4
内訳					
うち元金	117,395,148	15.5	112,835,443	112,534,949	23.7
うち利子	12,817,156	1.7	12,817,150	12,769,782	2.7
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	231,716,280	30.5	191,739,745	140,378,072	29.6
物件費	24,726,568	3.3	16,361,516	15,408,976	3.3
維持補修費	4,303,906	0.6	3,609,683	3,609,683	0.8
補助費等	177,523,321	23.4	151,015,085	108,721,849	22.9
繰入金	11,935,786	1.6	11,908,843	11,905,671	2.5
積立金	9,829,055	1.3	8,015,836	-	-
投資及び出資金	15,221	0.0	12,221	-	-
貸付金	3,382,423	0.4	816,561	731,893	0.2
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	146,865,414	19.3	16,343,331	-	-
うち人件費	2,923,111	0.4	480,735	-	-
普通建設事業費	142,552,531	18.8	15,918,470	-	-
うち補助	94,701,859	12.5	2,967,880	-	-
うち単独	40,662,478	5.4	12,860,907	-	-
災害復旧事業費	4,312,883	0.6	424,861	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	759,062,976	100.0	534,024,071	-	-

区分		平成30年度		平成29年度		
徴収率 (%)	現年計	合計	99.4	98.6	99.4	98.5
		道府県民税	99.0	96.8	99.0	96.6
		事業税	99.6	99.4	99.9	99.7
国民健康保険	実質収支	1,286,264	-	-	-	
事業会計の状況	再差引収支	1,286,264	-	-	-	

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

平成30年度 鹿児島県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	806,099	784,299	21,800	4,661	154	1,712,524	
2 母子父子等福祉資金貸付事業特別会計	315	170	145	-	6	396	
3 中小企業支援資金貸付事業特別会計	2,143	2,141	2	-	5	1,216	
4 福祉支援資金貸付事業特別会計	135	113	22	-	0	298	
5 公立土木用地取得先行事業特別会計	308	308	0	0	0	371	
6 林業・木材産業改善資金貸付事業特別会計	298	5	293	-	0	0	
7 沿岸漁業改善資金貸付事業特別会計	755	1	754	-	0	0	
8 公債管理特別会計	204,481	204,452	29	29	127,649	0	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

平成30年度

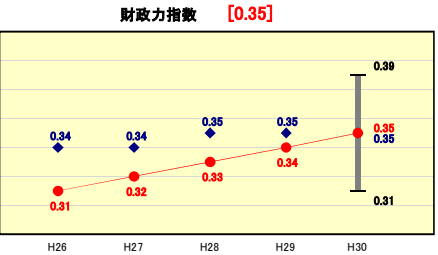
鹿児島県

人口	1,643,437人 (H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	1,633,098人 (H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	9,187.02km ²	実質公債費比率	12.2%
歳入総額	782,107,653千円	将来負担比率	216.8%
歳出総額	759,062,976千円	グループ	H26 D H27 D H28 D
実質収支	4,690,336千円	(年度毎)	H29 D H30 D
標準財政規模	475,587,075千円		
地方債現在高	1,603,161,253千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

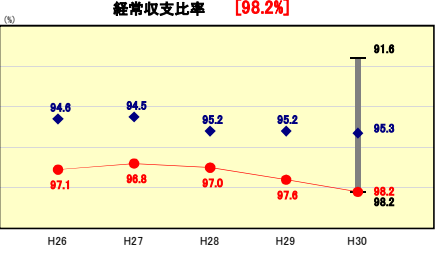
財政力



財政力指数の分析簡

前年度より0.01ポイント上昇し、グループ内平均と同じ0.35となっている。近年は個人県民税等の増収により上昇しているが、一方で、本県は高齢化が進行するとともに、外海離島や半島を有し、社会資本整備が立ち遅れていることなどから、財政需要も増大しており、依然として厳しい財政状況にある。引き続き、持続可能な財政構造を構築するため、行政改革に取り組みているところである。

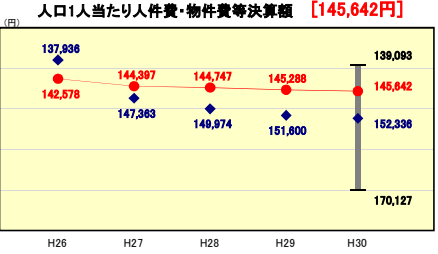
財政構造の弾力性



経常収支比率の分析簡

前年度より0.6ポイント上昇し、グループ内平均を上回る98.2%となっている。平成30年度は、過去に発行した県債の金額とその償還年限の影響などにより元利償還金が増加したことによる公債費の増加などにより、分子である歳出が増となった一方、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計が減少したことなどで分母である歳入が減となったことにより上昇したものである。今後とも、臨時財政対策債を除く本県独自に発行する県債の新規発行の抑制による公債費の縮減を図るとともに、職員数の縮減や職員給の見直しによる人件費の削減などにより、改善を図っていくこととしている。

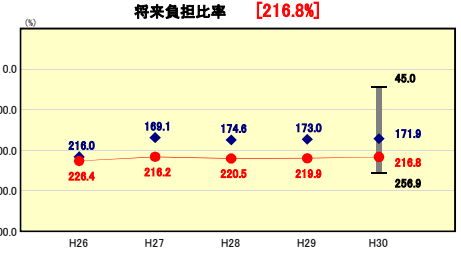
人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析簡

前年度より354円増加したものの、グループ内平均を下回る145,642円となっている。平成30年度は、分子である人件費、物件費及び維持補修費とも減少したが、分母である人口の減少の方が減少幅が大きかったことにより、前年度より増となっている。これまで、平成16年度に策定した「県政刷新大綱」や平成23年度に策定した「行政運営戦略」を踏まえ、職員数の縮減、職員給の見直し等による人件費の圧縮や、必要性・効率性の観点からメリハリをつけた物件費の見直し等に取り組んできたところである。今後とも、これまでの取組を進めていくこととしている。

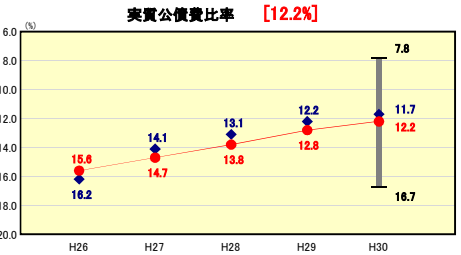
将来負担の状況



将来負担比率の分析簡

前年度より3.1ポイント低下したものの、グループ内平均を上回る216.8%となっている。平成23年度に策定した「行政運営戦略」を踏まえた臨時財政対策債を除く本県独自に発行する県債残高を抑制する取組などにより低下する一方で、他団体も地方債残高の抑制に努めており、標準財政規模に対する県債残高の規模がグループ内の他団体を引き続き上回っていることから、将来負担比率がグループ内平均を上回る状況が続いている。今後とも、本県が独自に発行する県債残高の抑制を図ることとしている。

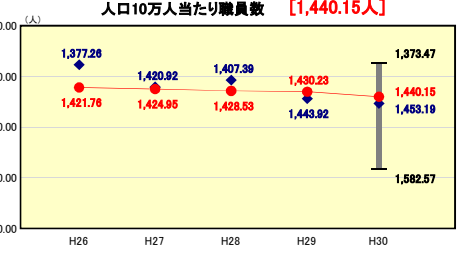
公債費負担の状況



実質公債費比率の分析簡

前年度より0.6ポイント低下したものの、グループ内平均を上回る12.2%となっている。平成30年度は過去に発行した県債の金額とその償還年限の影響などにより元利償還金が増加したこと等から単年度実質公債費比率が増加したものの、過去3か年の平均が前年度と比較して減となったことから低下する一方で、標準財政規模に対する県債残高の規模がグループ内の他団体を引き続き上回っていることから、実質公債費比率も引き続きグループ内平均を上回る状況が続いている。今後とも、臨時財政対策債を除く本県が独自に発行する県債の発行を抑制することなどにより、将来の公債費負担の抑制を図ることとしている。

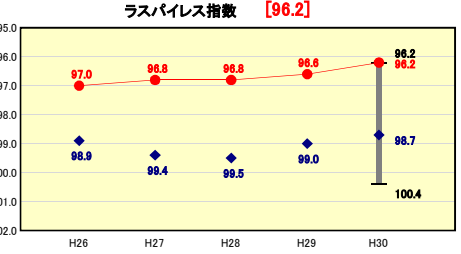
定員管理の状況



人口10万人当たり職員数の分析簡

前年度より9.92人増加したものの、グループ内平均を下回る1,440.15人となっている。近年はほぼ同水準で推移しているが、これは、これまで平成17年12月に策定した「組織機構改革方針」に基づく組織機構の見直し等により、一般行政部門の職員数について1,000人以上の純減を行ってきた一方で、人口の減少率が大いことが影響しているためである。今後とも、簡素で効率的な組織機構の整備や民間活力の活用などの取組を進めることにより、業務量に応じた職員の適正配置を行い、その縮減を図ることとしている。

給与水準 (国との比較)



ラスパイレズ指数の分析簡

ラスパイレズ指数は96.2となっており、グループ内で最も低くなっている。これは、職務給の徹底などの取組によるものである。今後とも、給与制度の見直しや適切な運用に努めることとしている。

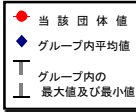
(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

鹿児島県

経常収支比率の分析

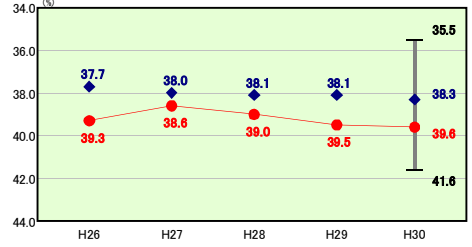
人	1,643,437	人(H31.1.1現在)	実	-	%
うち日本人	1,633,098	人(H31.1.1現在)	結	-	%
面積	9,187.02	km ²	実	12.2	%
歳入総額	782,107,653	千円	実	216.8	%
歳出総額	759,062,976	千円	得		
実収支	4,690,336	千円	来		
標準財政規模	475,587,075	千円	負		
地方債現在高	1,603,161,253	千円	担		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上、Bグループ 0.500以上1,000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

人件費

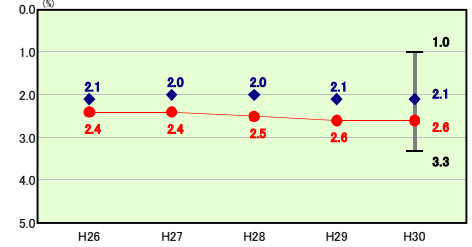
グループ内順位 8/12 都道府県平均 36.4



人件費の分析
 人件費に係る経常収支比率は、前年度より0.1ポイント上昇し、グループ内平均を上回る39.6%となっている。
 これは、退職手当支給水準の引下げによる退職手当の減などにより人件費は減少しているものの、地方税・普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源等に占める人件費の割合が増加したため前年度より上昇し、併せてグループ内他団体と比べても経常的一般財源等に占める人件費の割合が高いため、グループ内平均を上回っているものである。
 今後とも、職員数の縮減、職員給の見直し等により、人件費の削減に努めることとしている。

扶助費

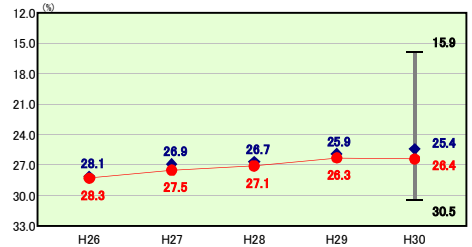
グループ内順位 11/12 都道府県平均 1.9



扶助費の分析
 扶助費に係る経常収支比率は、グループ内平均を上回る2.6%となっている。
 これは、水俣病関連の支出(水俣病総合対策事業(H30事業費:38.8億円))があることなどにより、グループ内平均を上回っているものである。

公債費

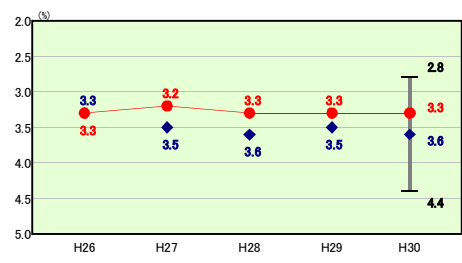
グループ内順位 7/12 都道府県平均 22.1



公債費の分析
 公債費に係る経常収支比率は、前年度より0.1ポイント上昇し、グループ内平均を上回る26.4%となっている。
 これは、過去に発行した県債の金額とその償還年限の影響などにより、元利償還金が増加したため前年度より上昇し、併せて標準財政規模に対して県債残高が大きいためグループ内平均を上回っているものである。
 今後とも、臨時財政対策債等を除く本県独自に発行する県債残高を抑制し、公債費負担を軽減していくこととしている。

物件費

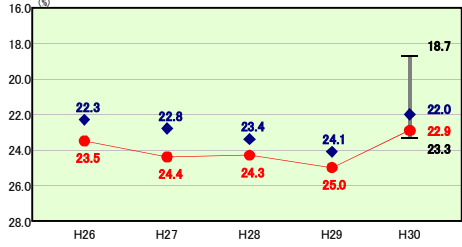
グループ内順位 4/12 都道府県平均 3.7



物件費の分析
 物件費に係る経常収支比率は、前年度と同水準でグループ内平均を下回る3.3%となっている。
 これは、「行政運営戦略」を踏まえ、一般政策経費の圧縮に取り組んできたことが反映されたものと考えられる。
 今後とも、必要性・効率性の観点からメリハリをつけた見直しに取り組むこととしている。

補助費等

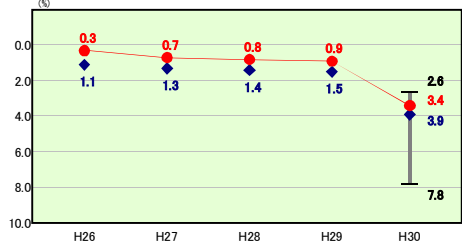
グループ内順位 8/12 都道府県平均 25.1



補助費等の分析
 補助費等に係る経常収支比率は、前年度より2.1ポイント減少しているものの、グループ内平均を上回る22.9%となっている。
 これは、事業実施主体が国民健康保険事業特別会計に移行したことに伴う国民健康保険財政調整交付金事業の減等により低下した一方で、子ども子育て支援制度移行に伴う施設型給付費負担金など少子高齢化の進展に伴い社会保障等に要する経費は増加しているため、グループ内平均を上回る状況が続いている。
 今後とも、社会保障の充実と適切に対応しつつ、医療や介護分野の適正な制度運営に努める必要がある。

その他

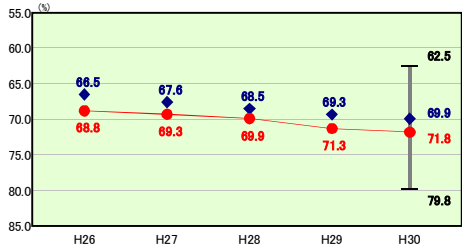
グループ内順位 4/12 都道府県平均 3.8



その他の分析
 その他は維持補修費、貸付金及び繰入金であり、平成30年度から設置された国民健康保険事業特別会計への繰出金の増加により、前年度より2.5ポイント上昇したものの、グループ内平均を下回る3.4%となっている。
 今後とも必要性・効率性の観点からメリハリをつけた見直しに取り組むこととしている。

公債費以外

グループ内順位 10/12 都道府県平均 70.9



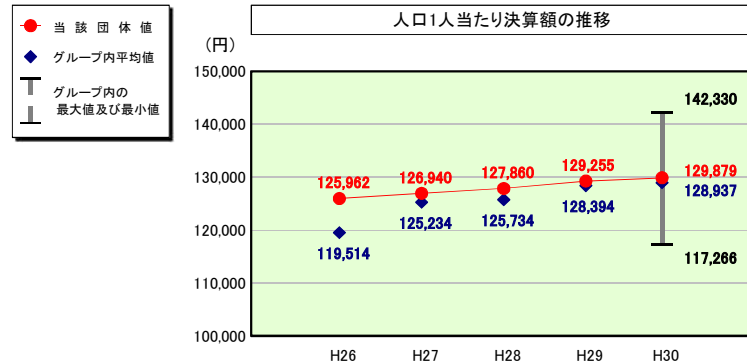
公債費以外の分析
 公債費以外に係る経常収支比率は、グループ内平均を上回る71.8%となっている。
 これは、人件費や補助費等に係る経常収支比率がグループ内平均を上回っていることなどによるものであり、人件費や繰出金の増加などにより、前年度より0.5ポイント上昇している。
 今後とも、必要性・効率性の観点からメリハリをつけた見直しに取り組むこととしている。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

鹿児島県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

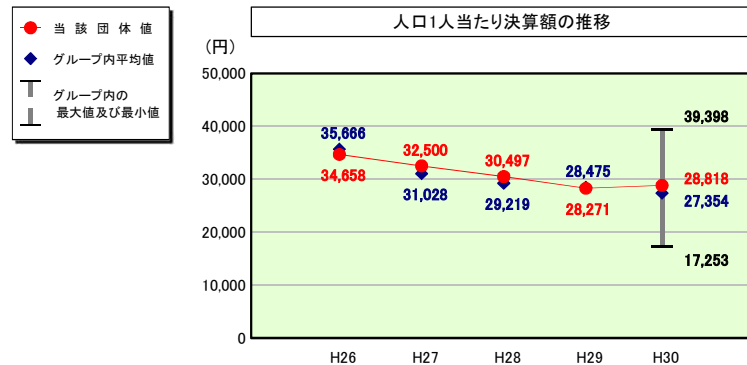
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	223,719,413	136,129	137,138	▲ 0.7
賃金 (物件費)	684,549	417	357	▲ 16.8
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	2,440,608	1,485	818	▲ 81.5
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	100	0	9	▲ 100.0
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	2,923,111	1,779	2,491	▲ 28.6
▲退職金	▲ 16,319,930	▲ 9,930	▲ 11,877	▲ 16.4
合計	213,447,851	129,879	128,937	0.7

参考

	当該団体	グループ内平均	対比 (差引)
人口100,000人当たり職員数 (人)	1,440.15	1,453.19	▲ 13.04
ラスバイレス指数	96.2	98.7	▲ 2.5

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

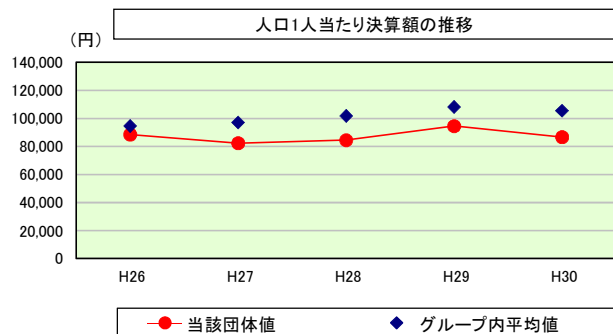
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	103,500,498	62,978	74,230	▲ 15.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	26,749,511	16,277	4,236	▲ 284.3
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	388,897	237	1,743	▲ 86.4
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	166	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,609,026	979	811	▲ 20.7
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲ 4,559,711	▲ 2,774	▲ 2,418	▲ 14.7
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 80,326,887	▲ 48,877	▲ 51,416	▲ 4.9
合計	47,361,334	28,818	27,354	5.4

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

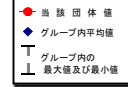
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	グループ内平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H26	149,772,394	88,548	▲ 12.8	94,715	▲ 16.9	4.1
うち単独分	39,329,076	23,252	6.0	24,902	0.1	5.9
H27	138,355,945	82,379	▲ 7.0	97,161	2.6	▲ 9.6
うち単独分	36,999,543	22,030	▲ 5.3	26,543	6.6	▲ 11.9
H28	140,923,577	84,486	2.6	101,731	4.7	▲ 2.1
うち単独分	37,402,221	22,423	1.8	26,906	1.4	0.4
H29	156,672,429	94,615	12.0	108,224	6.4	5.6
うち単独分	39,762,749	24,013	7.1	27,358	1.7	5.4
H30	142,552,531	86,740	▲ 8.3	105,585	▲ 2.4	▲ 5.9
うち単独分	40,662,478	24,742	3.0	26,225	▲ 4.1	7.1
過去5年間平均	145,655,375	87,354	▲ 2.7	101,483	▲ 1.1	▲ 1.6
うち単独分	38,831,213	23,292	2.5	26,387	1.1	1.4

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表 (住民一人当たりのコスト)

平成30年度

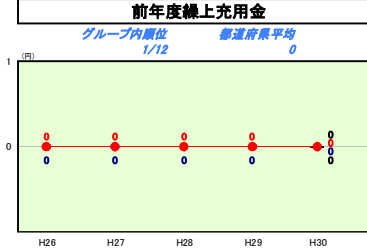
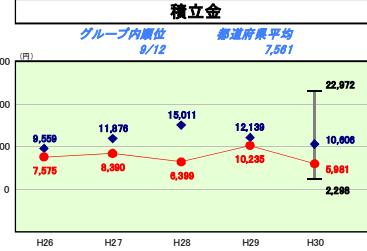
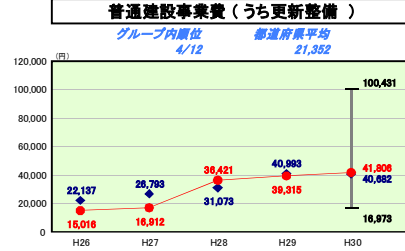
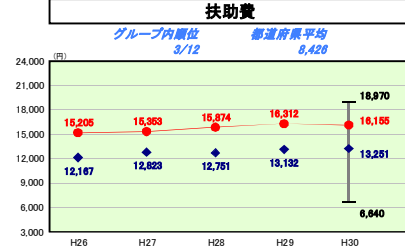
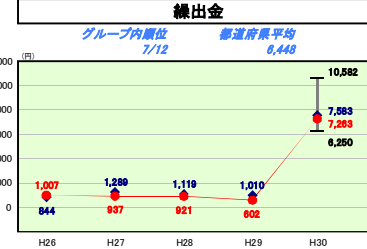
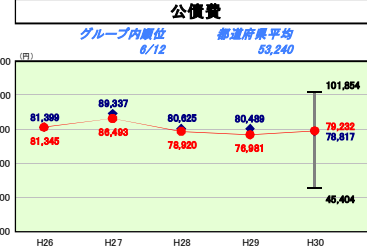
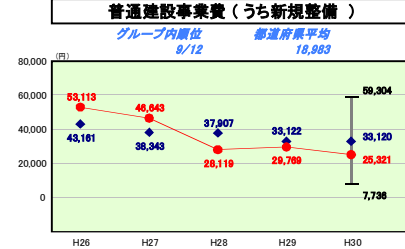
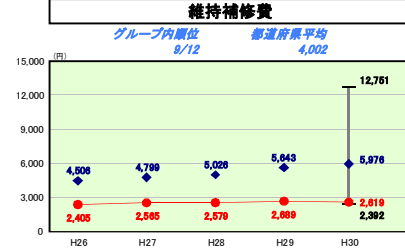
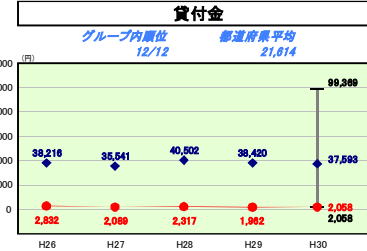
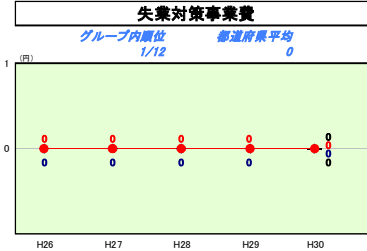
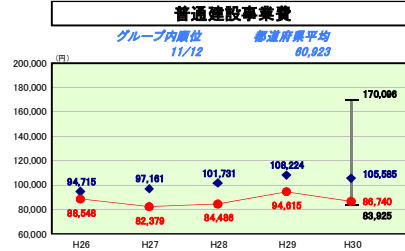
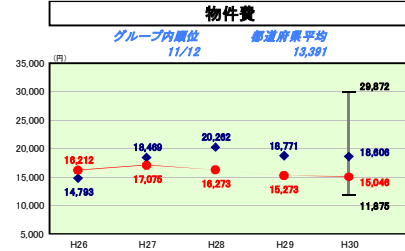
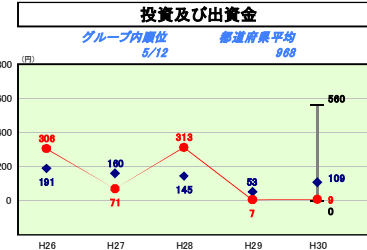
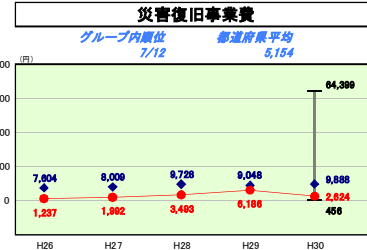
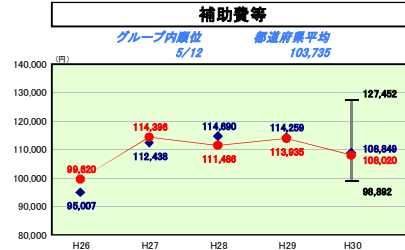
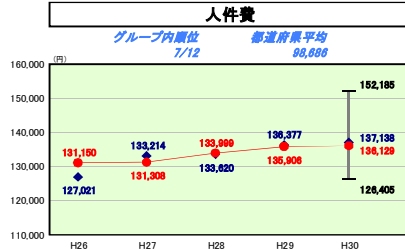
鹿児島県

人口	1,843,487人(981.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	1,833,089人(981.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%	
面積	9,187.02km ²	実質公債費比率	12.2	%	
歳入総額	782,107,853千円	実質負担比率	216.8	%	
歳出総額	789,062,976千円				
歳入歳出	4,690,336千円	グ	H26 D	H27 D	H28 D
標準財政規模	476,587,075千円	(年度毎)	H29 D	H30 D	
地方債現在高	1,603,161,263千円				



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上, Bグループ 0.500以上1,000未満, Cグループ 0.400以上0.500未満, Dグループ 0.300以上0.400未満]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析圖

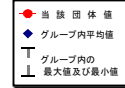
- ・ 歳出決算総額は、住民一人当たり461,875円となっている。
- ・ 補助費等は、住民一人当たり108,020円とグループ内平均をやや下回っている。前年度に比べ5,915円減少しているが、これは事業実施主体が国民健康保険事業特別会計に移行したことに伴う国民健康保険財政調整交付金事業の減などによるものである。
- ・ 普通建設事業費は、住民一人当たり86,740円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり17,875円減少しているが、これは、国の経済対策等に伴う畜産関連事業等の前年度からの繰越事業の規模が29年度に比べ小さかったことや、団体にに向けた施設整備事業が減となったことなどによるものである。
- ・ 災害復旧事業費は、住民一人当たり2,824円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり3,562円減少しているが、これは河川等災害復旧事業費の減などによるものである。
- ・ 積立金は、住民一人当たり5,981円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり4,254円減少しているが、安心・安全ふさと創生基金や財政調整積立基金に積立が減少したことなどによるものである。
- ・ 繰出金は、住民一人当たり7,263円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり6,661円増加しているが、これは平成30年度から設置された国民健康保険事業特別会計への繰出金の増などによるものである。

(6) 都道府県目的別歳出決算分析表 (住民一人当たりのコスト)

平成30年度

鹿児島県

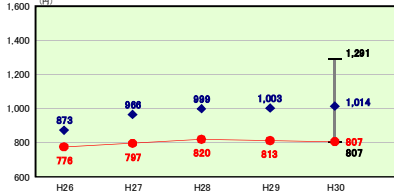
人口	1,843,487人(831.1万)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	1,833,089人(831.1万)	連結実質赤字比率	-	%
面積	9,187.02km ²	実質公債費比率	12.2	%
歳入総額	782,107,853千円	実質公債費比率	216.8	%
歳出総額	789,062,976千円	グループ	H26 D H27 D H28 D	
歳入歳出	4,690,336千円	(年度毎)	H29 D H30 D	
標準財政規模	476,587,075千円			
地方債現在高	1,603,161,263千円			



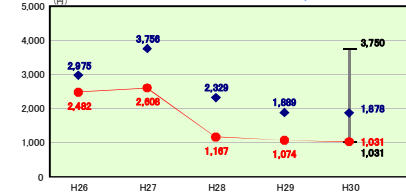
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上、Bグループ 0,500以上1,000未満、Cグループ 0,400以上0,500未満、Dグループ 0,300以上0,400未満]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

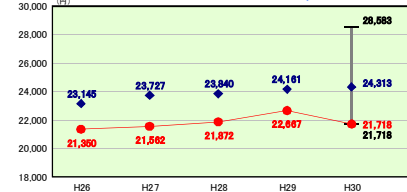
議会費
 グループ内順位 12/12 都道府県平均 807



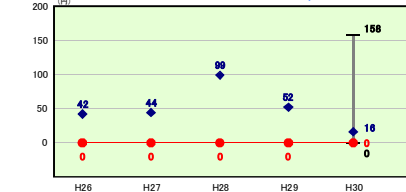
労働費
 グループ内順位 12/12 都道府県平均 1,195



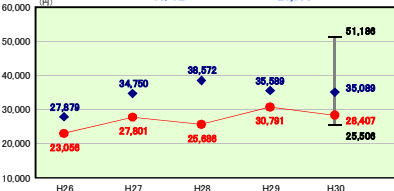
警察費
 グループ内順位 12/12 都道府県平均 25,903



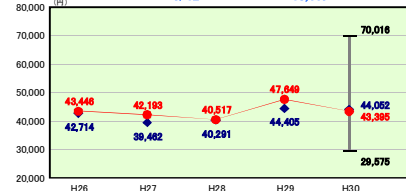
諸支出金
 グループ内順位 4/12 都道府県平均 4,518



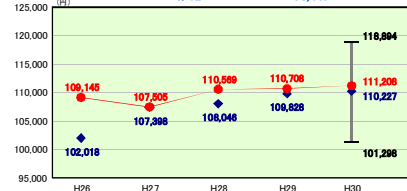
総務費
 グループ内順位 10/12 都道府県平均 21,779



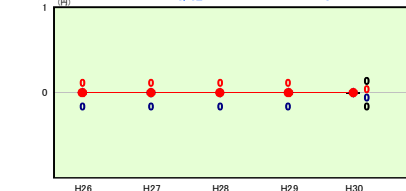
農林水産業費
 グループ内順位 5/12 都道府県平均 18,445



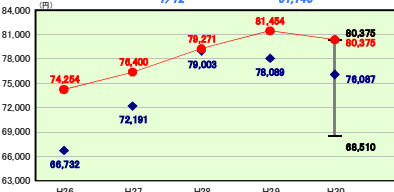
教育費
 グループ内順位 5/12 都道府県平均 78,447



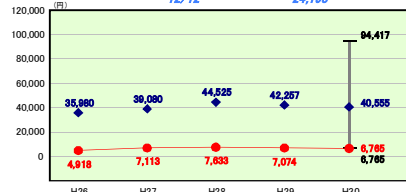
前年度繰上充用金
 グループ内順位 1/12 都道府県平均 0



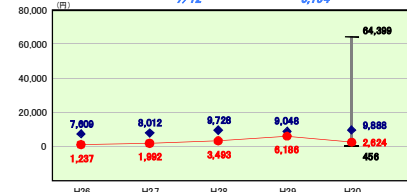
民生費
 グループ内順位 1/12 都道府県平均 81,148



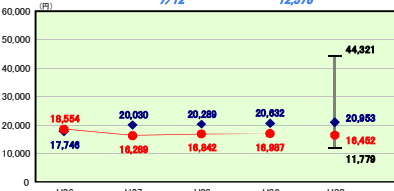
商工費
 グループ内順位 12/12 都道府県平均 24,198



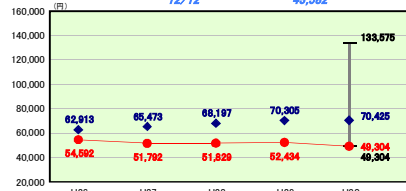
災害復旧費
 グループ内順位 7/12 都道府県平均 6,164



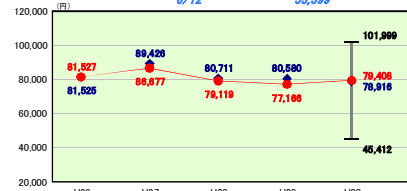
衛生費
 グループ内順位 7/12 都道府県平均 12,378



土木費
 グループ内順位 12/12 都道府県平均 43,582



公債費
 グループ内順位 6/12 都道府県平均 53,399



目的別歳出の分析

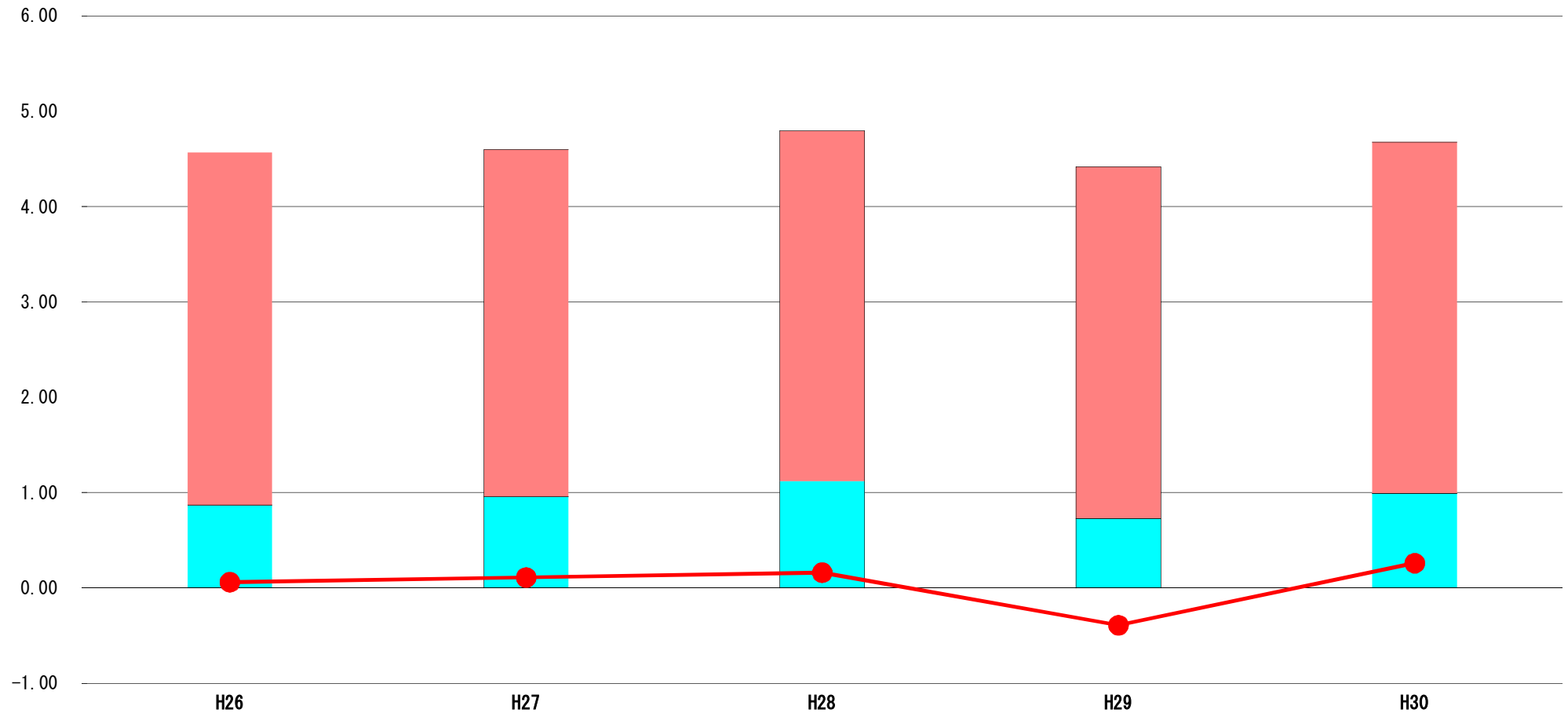
- 歳出決算総額は、住民一人当たり461,875円となっている。
- 総務費は、住民一人当たり28,407円とグループ内平均を下回っている。前年度より住民一人当たり2,384円減少しているが、安心・安全ふるさと創生基金や財政調整基金への積立金の減などによるものである。
- 民生費は、住民一人当たり80,375円とグループ内平均を上回っている。前年度より住民一人当たり1,079円減少しているが、これは国民健康保険財政安定化基金が普通会計から国民健康保険事業特別会計に移行したことや積立金の減などによるものである。
- 農林水産業費は、住民一人当たり43,395円とグループ内平均を下回っている。前年度より住民一人当たり4,254円減少しているが、これは国の経済対策等に伴う畜産関連事業等の繰越事業の減などによるものである。
- 警察費は、住民一人当たり21,718円とグループ内平均を下回っている。前年度より住民一人当たり949円減少しているが、これは警察施設整備事業費の減などによるものである。
- 災害復旧事業費は、住民一人当たり2,624円とグループ内平均を下回っている。前年度より住民一人当たり3,562円減少しているが、これは、河川等災害復旧事業費の減などによるものである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）




平成30年度

鹿児島県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
 財政調整基金残高		3.70	3.64	3.68	3.69	3.69
 実質収支額		0.87	0.96	1.12	0.73	0.99
 実質単年度収支		0.06	0.11	0.16	▲ 0.39	0.26

分析欄

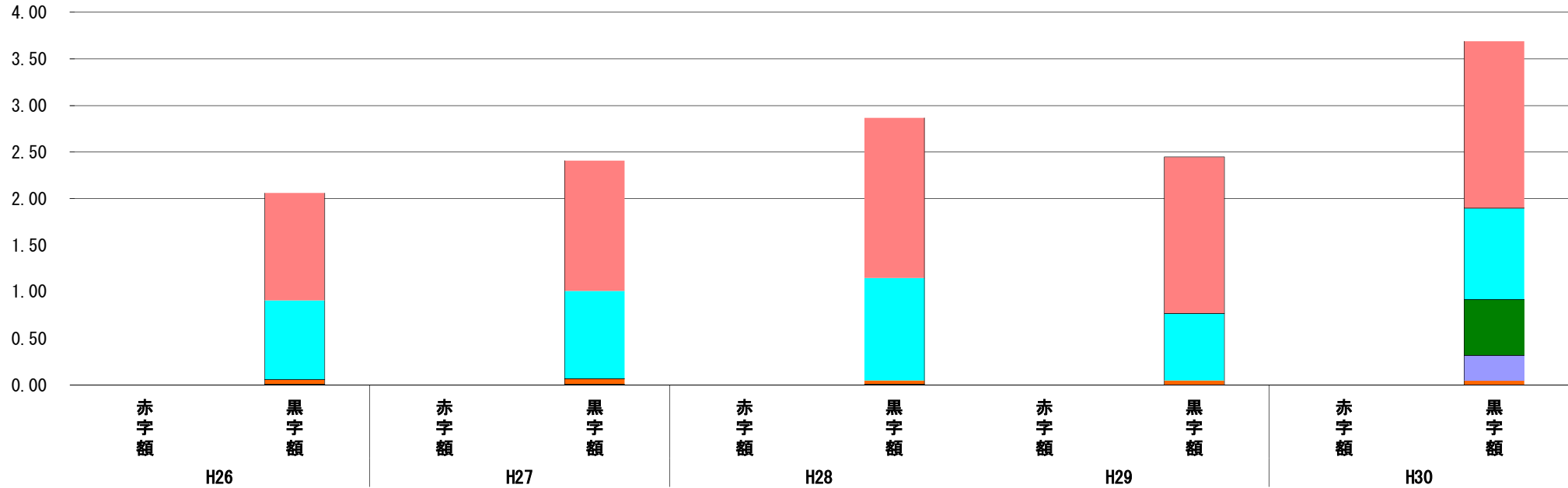
財政調整基金残高は、「県政刷新大綱」や「行財政運営戦略」に基づく歳入・歳出面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している。
 また、実質収支については事業の効率的な執行に努めたことなどにより黒字を維持している。
 引き続き、持続可能な行財政構造を構築するため、行財政改革に取り組んでいく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

平成30年度

鹿児島県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
鹿児島県病院事業特別会計		1.15	1.40	1.72	1.68	1.79
一般会計		0.85	0.94	1.10	0.72	0.98
鹿児島県港湾整備事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.60
国民健康保健事業特別会計		-	-	-	-	0.27
鹿児島県工業用水道事業特別会計		0.05	0.06	0.04	0.05	0.05
公債管理特別会計		0.01	0.01	0.01	0.00	0.00
公共土木用地取得先行事業等特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

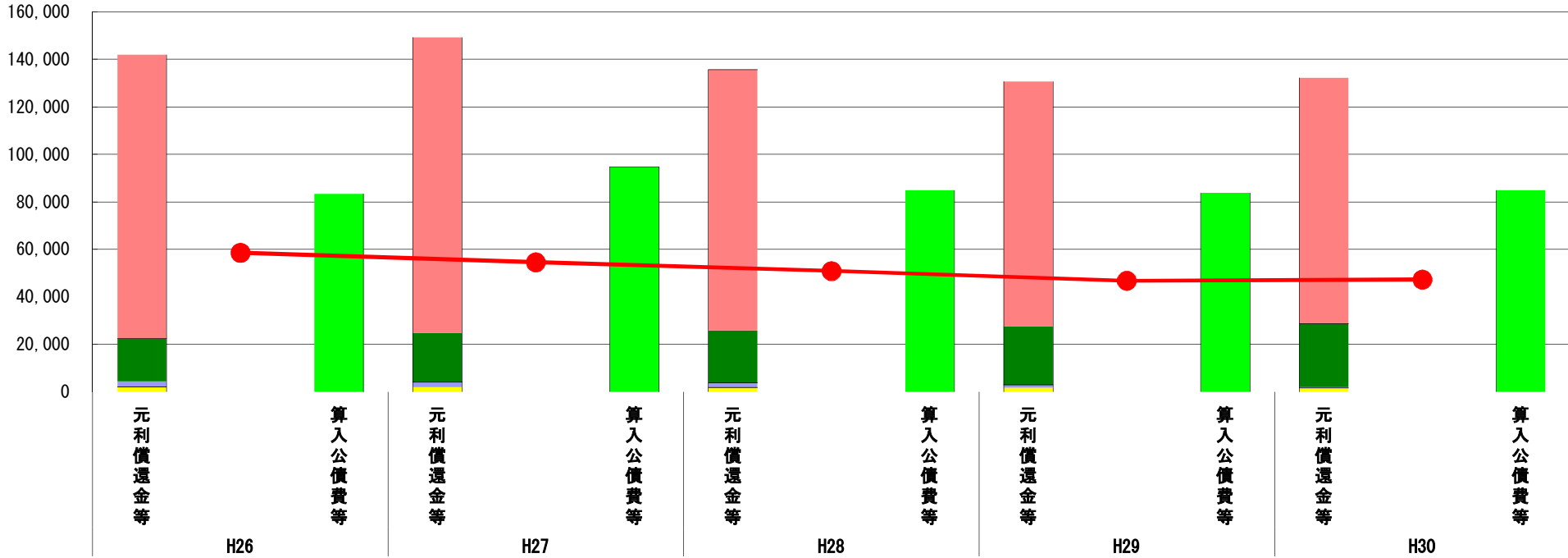
いずれの会計も赤字ではない。
 一般会計については、行財政改革の取組等により、また病院事業特別会計については、平成22年度に策定した県立病院事業中期事業計画（平成29年度からは第二次中期事業計画）などに基づく経営改革により黒字となっている。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

平成30年度

鹿児島県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金	119,623	124,525	109,758	103,055	103,500
	減債基金積立不足算定額※	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	17,922	20,629	22,140	24,644	26,750
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	2,254	2,054	1,890	1,210	389
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	2,216	2,103	1,932	1,796	1,609
	一時借入金の利息	-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等	83,393	94,727	84,852	83,892	84,887
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	58,622	54,584	50,868	46,813	47,361

分析欄

実質公債費比率の分子は、平成23年度以降減少傾向にある。
これは、満期一括償還の市場公募債に係る積立分への積立額が増加しているものの、過去に発行した県債の償還等により満期一括償還の市場公募債以外の元金償還が減少していることや、最近の低金利を反映して利子の支払が減少していることなどにより減少したものであるが、平成30年度は、基準財政需要額に算入される公債費等の減などにより増加している。

(参考)

		年度				
		H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※ 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	58,946	74,866	80,197	87,089	98,070
	減債基金積立相当額	58,894	74,817	80,112	87,086	98,064

分析欄

減債基金積立相当額の積立ルールが30年償還で毎年度の積立額を発行額の30分の1として設定し、毎年度、ルールどおりに基金積立を実施しており、積立不足は生じていない。

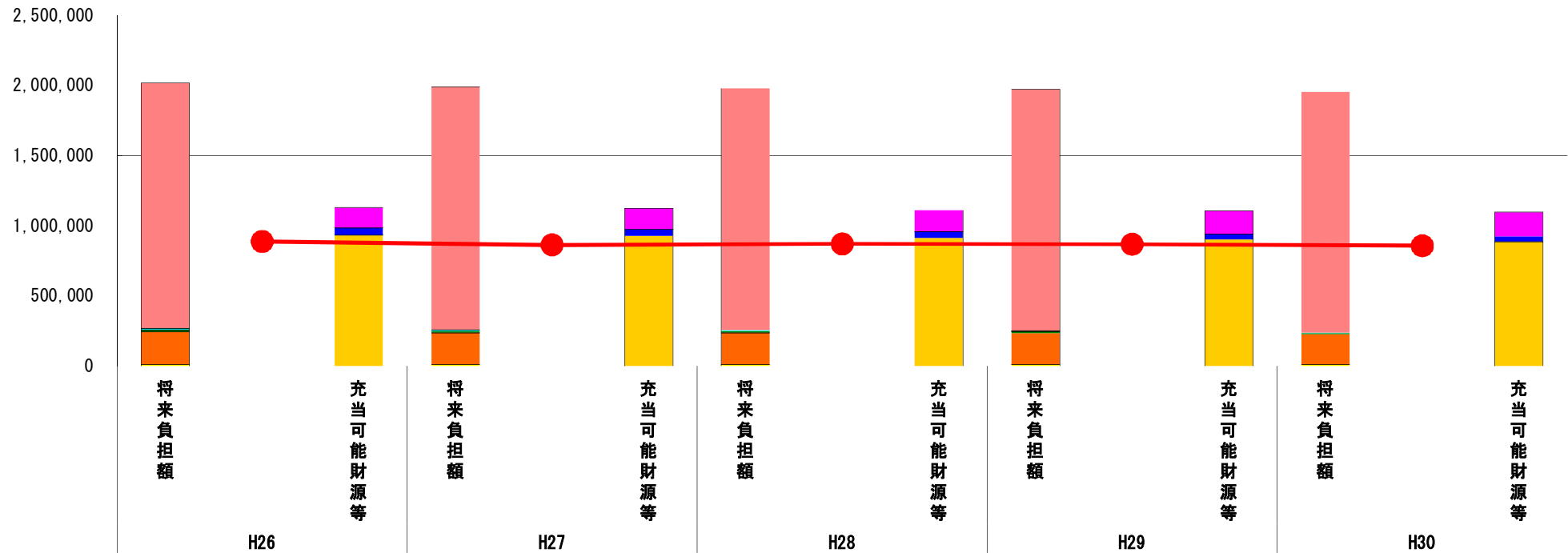
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成30年度

鹿児島県

(百万円)



(百万円)

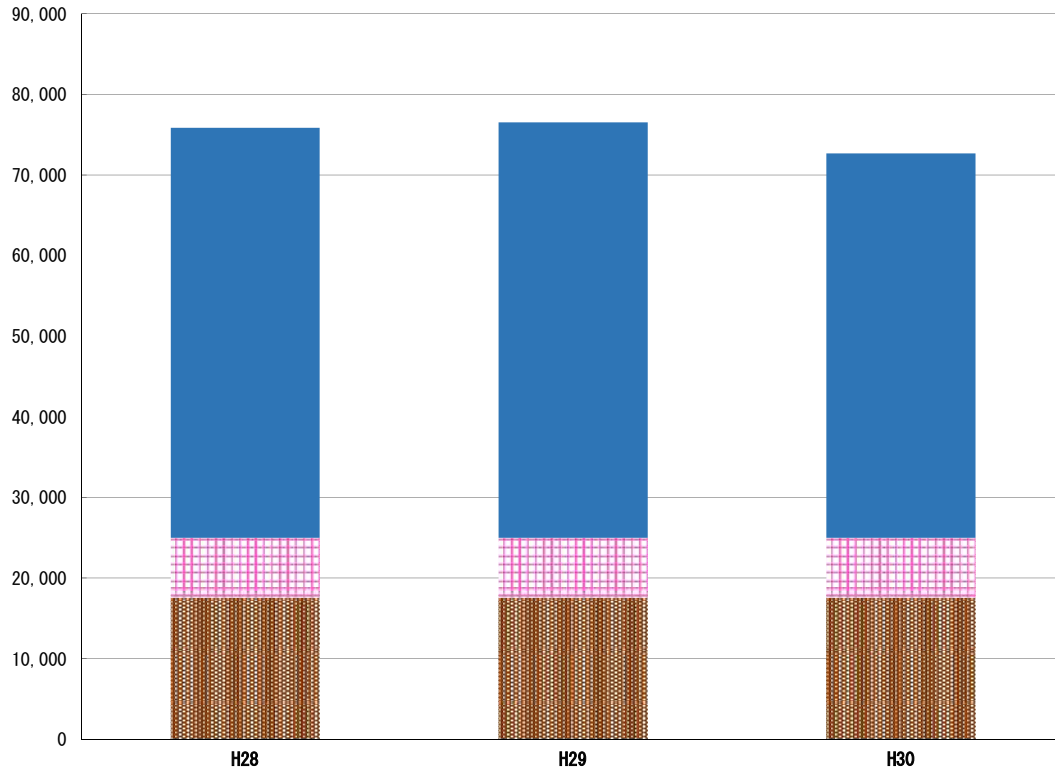
分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		1,748,299	1,729,382	1,724,136	1,720,795	1,714,704
	債務負担行為に基づく支出予定額		10,451	8,999	7,288	5,755	4,324
	公営企業債等繰入見込額		13,865	13,587	13,395	12,066	8,029
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		232,070	224,141	224,679	223,668	216,112
	設立法人等の負債額等負担見込額		11,039	10,557	10,354	10,298	10,147
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		143,460	150,516	152,223	163,847	173,174
	充当可能特定歳入		52,255	46,125	45,333	41,124	38,050
	基準財政需要額算入見込額		932,511	927,040	912,607	900,528	885,046
(A) - (B)	将来負担比率の分子		887,498	862,985	869,688	867,083	857,045

分析欄

将来負担比率の分子は、近年、地方債の現在高の減等により減少傾向が続いている。
これは、臨時財政対策債等を除く本県独自発行ベースの地方債現在高の減や、将来負担額から控除される、「地方債の償還等に充当可能な基金」の増等によるものである。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		17,545	17,556	17,559
減債基金		7,432	7,437	7,438
その他特定目的基金		50,862	51,516	47,663
安心・安全ふるさと創生基金		14,948	19,053	18,121
国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金		9,240	7,982	6,726
後期高齢者医療財政安定化基金		5,040	5,372	5,372
地域医療介護総合確保基金		2,683	3,682	4,501
県有施設整備積立基金		17	17	2,706
基金残高合計		75,839	76,510	72,660

平成30年度

鹿児島県

基金全体

(増減理由)

その他特定目的基金の残高が前年度から3,853百万円減少したことなどにより基金全体としては3,850百万円の減となった。
 その他特定目的基金については、地域医療介護総合確保基金が医療介護総合確保促進法に基づく事業に要する経費に充当する国の補助金及び一般財源を積み立てたことなどにより819百万円の増、県有施設整備積立基金が事業終了に伴い廃止となった鹿児島臨海環境整備基金取崩額の一部を積み立てたこと等により2,689百万円の増となった一方、安心・安全ふるさと創生基金が介護保険負担事業等の財源として取り崩したことなどにより932百万円の減、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金が施設整備、開催準備、競技力向上等の各事業の財源として取り崩したことなどにより1,256百万円の減となった。

(今後の方針)

財政調整基金残高は、「県政刷新大綱」や「行財政運営戦略」に基づく歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している一方、人口や標準財政規模が類似する団体と財政調整に活用可能な基金の残高を比較すると、本県の残高は少ない方であり、今後とも安定的な財政運営を行うためには基金の充実が必要であると考えている。
 また、特定目的基金については、支出が複数年にわたる事業や特定の政策目的のために今後も適切に運用していく必要があると考えている。

財政調整基金

(増減理由)

前年度から3百万円増加しているが、これは運用益によるものである。

(今後の方針)

「県政刷新大綱」や「行財政運営戦略」に基づく歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している一方、人口や標準財政規模が類似する団体と財政調整に活用可能な基金の残高を比較すると、本県の残高は少ない方であり、今後とも安定的な財政運営を行うためには基金の充実が必要であると考えている。

減債基金

(増減理由)

前年度から1百万円増加しているが、これは運用益によるものである。

(今後の方針)

「県政刷新大綱」や「行財政運営戦略」に基づく歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している一方、人口や標準財政規模が類似する団体と財政調整に活用可能な基金の残高を比較すると、本県の残高は少ない方であり、今後とも安定的な財政運営を行うためには基金の充実が必要であると考えている。

その他特定目的基金

(基金の使途)

- ①安心・安全ふるさと創生基金
子どもから高齢者まですべての県民が生産にわたって安心して安全に暮らすことができる地域社会の創生に向けた施策を推進すること。
- ②国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金
第75回国民体育大会及び第20回全国障害者スポーツ大会の施設整備、運営等に資すること。

(増減理由)

①安心・安全ふるさと創生基金
県有地売却に伴う財産収入や県税の増等により生じた財源を積み立てた一方で、介護保険負担事業等に充当したため、減となった。
 ②国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金
第75回国民体育大会と第20回全国障害者スポーツ大会の開催のための施設整備等や運営等に要する経費に充てるため、運用益及び標準等使用料収入を積み立てた一方、施設整備、開催準備、競技力向上等の各事業の財源として取り崩したため減となった。

(今後の方針)

- ①安心・安全ふるさと創生基金
今後とも主な充当対象である社会保障等に要する経費が増加し続けることを踏まえ、基金の財源確保に努めるとともに、当該事業に積極的に活用していく予定。
- ②国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金
2020年度まで、運用益や募金収入等を基金に積み立て、大会の開催に向けた施設整備、開催準備、競技力向上等の各事業に全額充当する予定。